▼個人質問▲

新しい公共交通の整備を

問　ビーバスの運行廃止等を踏まえ、新たな公共交通網の整備に対する考えは。

答　高齢化社会が進行する中、みずから移動する手段を持たない高齢者や子供にとって、身近に存在する公共交通の維持・確保は必要不可欠なものと認識している。そのため、沼津市公共交通活性化対策協議会を通じて、住民生活の実情に即した、交通弱者が利用しやすい運行ルートの設定やダイヤの再編、二十人乗り程度のバスの導入などのほか、利用者の事前予約により運行するデマンドバス等への移行について研究していく。

定住人口確保のための移住・交流推進への取り組みは

問　都市から地方への移住・交流を推進し、人口減少社会における地域振興を図るための組織であるＪＯＩＮ（移住・交流推進機構）に加入した効果と、移住・交流推進に対する今後の取り組みは。

答　移住・交流が定住人口の確保にもつながるとの認識から、本市では平成二十二年度からＪＯＩＮに加入している。本機構を通じて移住・定住に係る施策や情報の収集・発信を行っており、県外から田舎暮らしに関する問い合わせも寄せられている。今後も、ＪＯＩＮや県などの関係機関と連携・協力し、本市の魅力の発信に努めていく。

駿河湾沼津ＳＡへのアクセス道路の整備を

問　駿河湾沼津サービスエリアへのアクセス道路の環境整備が不十分であると認識しているが、その改善に向けた考えは。

答　駿河湾沼津サービスエリアには引き続きスマートインターチェンジの導入を検討しており、その設置にあわせ、アクセス道路の整備を進めていきたいと考えている。一般道からも利用できる「ぷらっとパーク」へのアクセス向上に対しては、事業者である中日本高速道路株式会社が誘導経路や案内看板などの整備を検討していると聞いており、市は現道の状況等を踏まえ、必要な安全対策などについて、事業者と調整していく。

▲４月14日にオープンした駿河湾沼津サービスエリア

自治会防犯灯に対する考えは

問　自治会防犯灯について、①すべてを市へ移管し、一括してＬＥＤ化を図る考えは。②現行の補助制度に対する認識は。

答　①平成二十一年度から、自治会等が行う防犯灯の設置に対し、ＬＥＤ防犯灯を補助対象に加えるなど、防犯灯のＬＥＤ化を推進してきている。防犯灯の設置及び維持管理は、各地域における防犯活動の一環として、日ごろから目配りができる地元自治会等の中で行われることが最適であると考えている。②本市の補助制度は、県内の他市町と比較しても充実した内容となっており、現行制度を継続していきたいと考えている。

香陵駐車場発券所の人員配置に対する認識は

問　市民文化センターに隣接する香陵駐車場の相乗り減免のための人員配置について、費用対効果等に対する認識は。

答　香陵駐車場は、利用者数が他の駐車場に比べ極めて多いことから、効率的な活用による駐車場不足の緩和を図るため、平成十四年に有料化し、相乗り減免の制度を導入している。相乗り確認のための職員を一名配置しているが、その効果については、平成二十二年度は、総入場台数約十二万五千台のうち、相乗り減免対象台数は約三万二千五百台であったことなどから、駐車スペースの確保や周辺道路の渋滞緩和等に効果があるものと認識している。また、その人員配置については、相乗りの確認だけでなく、出庫をスムーズに誘導するという重要な役目も担っていると考えている。